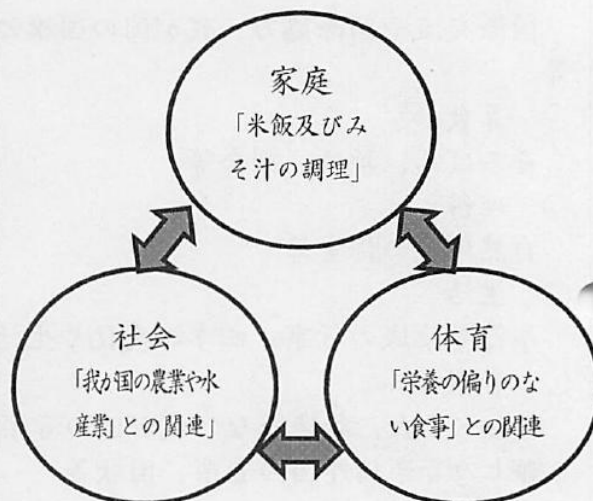


2 各教科等との関連を図った計画的、系統的な指導を行う

イベント的な単発の学習では、子どもたちの理解を定着、発展させることは困難である。これまで各学校が行ってきた伝統文化にかかわる指導内容を見直し、学校としてより計画的、系統的に実施するよう教育課程上の工夫、改善を行う。

- (1) 各教科等の年間指導計画の中から、我が国の伝統文化にかかわる指導内容を確認し抽出する。
- (2) 各教科等の指導内容の関連を確認し、指導の時期や方法などについて相互の関連を考慮して年間指導計画を検討する。
- (3) 各教科等の年間指導計画に伝統文化に関する指導内容を位置付け、日々の授業で計画的に実施する。
- (4) 実施に当たっては、単独の教科で個別に実施するだけでなく、取り上げる伝統文化の特質に応じ関連する学習を効果的に組み合わせて実施するなど、教育課程上の工夫を行う。



3 学習過程を工夫する

日々の生活に密着した伝統や文化が分かりやすいことから、子どもたちにとって身近な内容から入ることが大切である。地域の伝統文化を学んだ後に、日本、世界へと視野の拡大が図られるよう学習過程を工夫することが必要である。

- ① 衣食住や遊びなど、身近な題材を基にしながら、子どもたちに興味をもたせる。
- ② 古い時代から継承されてきた文化だけでなく、現代の文化についても学ぶようにする。

4 子どもが事象の背景を理解し、実生活との関わりを考えられるようにする

学習する伝統文化には、どのような背景があるかを学ぶことは、子どもたちの理解をより確かなものにする。

また、子ども自身が、自分の生活とのかかわりの中で、その地域の気候、風土、環境条件等を生かした伝統文化を支える技術や、素材を調達できる仕組みやつながりを理解することは、その後の生活に生かすことにつながる。

- (1) 対象の伝統文化がどのように生まれ、今日まで引き継がれてきたかについて調べたり考えたりする。
- (2) 常に、現在の自分の生活とのかかわりについて考える。